

樹木の生育状況を見える化する

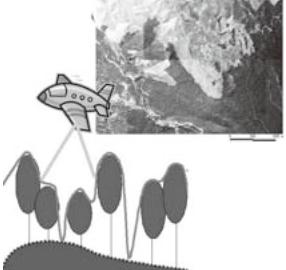
森林管理へのリモートセンシングデータ解析技術の応用



技術分野分類 7201：森林科学

技術キーワード 計画・管理

産業分類 A-02：林業

内 容	概要	わが国の森林の多くは急傾斜地に広域に分布しています。そのため森林情報を人が歩いて把握するには限界があります。そこで、航空写真や衛星画像などのリモートセンシングデータや地形図、そして GIS（地理情報システム）を駆使して森林資源の分布・量、その変化を把握し、得られたデータにもとづいて適切な造林樹種の選択や施業方法、また森林自然環境の保全手法について研究しています。
	従来技術・競合技術との比較（優位性）	わが国では全国的に撮影されるようになった 1950 年前後から森林分野で航空写真が利用されてきました。近年では様々な解析技術が開発され、リモートセンシングによる森林情報の把握・利用が進んでいます。本研究では、これらの技術も活用し、特に「経年変化」に焦点を当て、人工林の樹木の成長の過程や程度、また里山の宅地開発による地形の変化などを分析しています。
	本技術の有用性	樹木の成長の良し悪しなどの情報をリモートセンシングデータから得ることによって効率的・効果的な森林管理を行うことができます（図-1）。宅地開発などによる森林の分布や地形の変化をリモートセンシングデータや地形図から得ることによって適切な里山保全を行うことができます。
関連情報 (図・表・写真等)		 <p>図-1 リモートセンシングデータ（航空写真）を用いて広域の樹高を測定（林冠面高から地表面高を差し引くことで樹高を求めることができる）</p>
適用可能製品		森林管理用 GIS や宅地開発による森林自然環境への影響の評価システムなど
技術シーズ保有者	氏名 所属・役職	板谷 明美 三重大学 生物資源学研究科 共生環境学専攻 森林環境資源利用学研究室 准教授
技術シーズ照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	三重大学 社会連携研究センター 059-231-5364/059-231-9743 liaison@crc.mie-u.ac.jp

■知的財産

■試作品状況



提示可

提供可

作成日 2014年 2月 18日